

日高山脈館開館10周年記念 フォーラム

日高の自然を語る

雄大な日高山脈の自然について、**地域にどう生かす**のか、
また、**どう守っていく**のかを、日高山脈における**地質・植
物・動物・ジオパークあるいは国立公園**、それぞれの観点
から、日高の自然の現状とこれからについて学びましょう。



2009年10月18日
日高山脈館

日高山脈館開館10周年記念フォーラム

「日高の自然を語る」開催要項

- 1 主催 日高山脈館開館10周年記念事業実行委員会
- 2 共催 日高町教育委員会
- 3 後援 日高北部森林管理署・国立日高青少年自然の家・独立行政法人産業技術総合研究所地質調査総合センター
- 4 運営協力 日高山脈登山会議
- 5 日時 10月18日(日) 10:00～16:00
- 6 プログラム
 - 9:30～ 開場
 - 10:00～ 講演 小川 巖氏(エコ・ネットワーク代表)
「日高の動物 - 最近のトピックス」
 - 11:00～ 講演 佐藤 謙氏(北海学園大学教授)
「日高山脈の植物」
 - 12:00～ 休憩
 - 13:00～ 講演 宮下純夫氏(新潟大学教授)
「日高山脈と日高町周辺の地質学的意義」
 - 14:00 講演 佃 栄吉氏((独)産業技術総合研究所)
「日本のジオパーク運動と地域振興」
 - 15:00 パネルディスカッション
「日高の自然をどう生かすか・どう守るか」
 - 16:00 終了

講演は、45分間です。講演後、質疑応答10分、次講演準備に5分の時間をとっております。

入場・退場は自由といたしますが、他の参加者のご迷惑にならないようお願い申し上げます。

■□ 講 師 紹 介

小川 巖 おがわ いわお (エコ・ネットワーク代表)

1945年北海道松前町生まれ。1969年信州大学農学部林学科卒業。1970年北海道大学大学院農学研究科修士課程入学,1972年北海道大学大学院農学研究科博士課程入学,1976年同課程単位取得。

専門分野は,野生生物学,生態環境論,野生動物調査法,環境体験論。

現在は,身近な自然を生かした地域づくり,自然を楽しむプログラム開発と普及にあたる団体「エコ・ネットワーク」の代表として,北海道における自然環境分野の第一人者として,各種委員会の委員を歴任されるほか,さまざまな団体・グループからの講演依頼に,道内各地で講演活動を実施している。

「森と海の動物たち」「森はみんなの遊び場だ」「アニマルレスキュー教本・野鳥編」など,著書も多数。

佐藤 謙 さとう けん (北海学園大学 教授)

1948年岩手県奥州市生まれ。1971北大農学部卒,1973年同大学院農学研究科修士課程修了。1973年より北海学園大学に勤務。現在,同大学教授。博士(学術)。

(専門)生態学と分類学,とくに北海道の高山植物と高山植生。

(主著)「北海道高山植生誌」(北大出版会,2007)。著書・学術論文は多数。

(学会役員)日本生態学会自然保護専門委員会委員

(公職)北海道希少野生動植物保護条例に基づく希少野生動植物候補種検討委員会植物部会長、北海道環境審議会委員など

(NGO)社団法人・北海道自然保護協会会長

日高山脈などをフィールドに,北海道の高山を全部歩くことを目標にした,緻密な研究を行ない,古くから環境庁・北海道自然保護課,文化庁・北海道教育委員会などによる自然保護に関する基礎調査にも関わっている。

宮下 純夫 みやした すみお (新潟大学 教授)

1946年北海道生まれ。札幌南高校卒業後、北海道大学に入学。1979年北大理学研究科地質学鉱物学専攻博士課程修了。1987年新潟大学理学部助手、1991年同大学同学部助教授、1998年より同大学同学部教授。現在、日本地質学会会長も務める。

幼少より地学が好きで、高校では地学クラブに所属。大学で地質鉱床学を学ぶ。大学院時代は、橋本誠二教授の指導のもと、日高山脈の成因に取り組む。幌尻岳を主なフィールドとし、夏季は何か月も山にこもって調査。その結果、それまでの日高山脈の成因では説明できない事実を発見し、他の研究者とともに、これらを北海道新聞に連載、「北海道創成紀」(北海道新聞社)にまとめるなど、日高山脈の成因について最前線の研究を行なう。

日高山脈で研究していた岩石の起源が海洋地殻であるとわかり、深海潜水調査艇などを用いた研究にも従事。最近は過去の海洋地殻 - 上部マントルの世界的典型であるオマーンオフィオライトに関する研究に力を入れている。

学術論文や著書は多数。

佃 栄吉 つくだ えいきち ((独)産業技術総合研究所)

1952年生まれ。1976年広島大学大学院理学研究科博士課程前期修了、1996年理学博士(広島大学大学院)。

専門は地震地質学で、主に活断層の研究に従事。

1977年通商産業省工業技術院地質調査所(現・(独)産業技術総合研究所)入所。1991年同近畿・中部地域地質センター長、1994年同環境地質部地震化学課長、1997年同地震地質部変動解析研究室長、2000年同企画室長、2001年(独)産業技術総合研究所活断層研究センター長を歴任。2003年より独立行政法人産業技術総合研究所研究コーディネータ、2008年より、同第7事業所管理官、また2009年より、同広報部地質標本館長をそれぞれ兼任。

日本地質学会副会長、日本土木学会原子力土木委員会委員をはじめ、法人・内閣府・文部科学省・経済産業省の各種専門委員を歴任され、最近では、日本におけるジオパーク活動推進のため、講演、論文執筆などさまざまな分野でも活躍している。

学術論文・著書は多数。



「日高の動物 - 最近のトピックス」

小川 巖 (エコ・ネットワーク代表)



佐藤 謙（北海学園大学 教授）

■□ 「日高山脈と日高町周辺の地質学的意義」
■■

宮下 純夫（新潟大学 教授）

■□ 「日本のジオパーク運動と地域振興」
■■

佃 栄吉 (独)産業技術総合研究所)



パネルディスカッション

「日高の自然をどう生かすか・どう守るか」

2009年10月18日 発行

日高山脈館開館10周年記念フォーラム

「日高の自然を語る」リーフレット

発行 日高山脈館

編集・レイアウト 東 豊土（日高山脈館）